
ルーム -room-

鼎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ルーム - room -

【Nコード】

N8591P

【作者名】

鼎

【あらすじ】

誰しも心の拠り所って持つてるよね。

…え、俺だけじゃないよね…？

と、とりあえずある少年の、ほんの一瞬の話。

（前書き）

一部の人にしか伝わらんだろうな…

分かる人には分かるネタかな…と思います。

とりあえず2011年も頑張ろうか。

文頭一個空いてないのは勘弁w

ふと目が覚めた。何のノイズも不快感もない目覚めだった。周りは暗い。時計を見たワケじゃないけど、カーテンの隙間から部屋へ差し込む光のお陰で明け方近くだと分かる。

体は動かさない。面倒だから。というか動く必要はないし、ぼーっとして再び眠気を待つ。

寝る前に何をしていたか。何気なく思った。

「……………あ」

そして止まった時間は動きだし、得体のしれない感情は僕の手に動けと言う。

最早眠気どころの話ではない。深海のような静寂と蒼に包まれていた部屋は赤くなり、耳障りな謎の音さえ聞こえる。ぼーっとしていた頭は回転を始め、次の指令を指先へ送る。

誰も居ない部屋に僕は居た。もちろん自身を除いての話だ。部屋は訪問者を快く迎え、そして置き去りにて眠りにつく。次に彼（彼女かもしれない）が目覚めるのは僕が帰る時だ。

「……………あー、クソ……………またか」

既に焦りも不安も消え、呆れの感情が沸いていた。またこの部屋の住人に迷惑をかけてしまったが、一体なんと言われらるだろうか。どうせ追求されはしないだろうけど。

一応の痕跡は残し、僕は部屋を去る。

僕はまたこの部屋へ来るだろう。そんな習慣がいつまで続くかは知らないが、少なくとも誰かが死ぬまでは。

そんな事を思いながら部屋の電気を消し、僕は眠りに落ちた。
明日はまず誰と会うのだろう。

（後書き）

要は俺みたいにチャットで寝落ちすんなって話ですよ。
キモい文でなんかスミマセン

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8591p/>

ルーム -room-

2011年1月9日00時22分発行